

## 1998年を迎えて



日立製作所 取締役社長

金井 務

日ごろより「日立評論」をご愛読いただき厚く御礼申し上げます。「平成10年度の日立技術の展望」号をお届けするにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

東西冷戦の終結に伴い、科学技術の進歩の恩恵が主として人々の生活水準の向上に向けられるようになりました。その結果、衣食住、教育、仕事、交通など、生活環境は世界的に年々向上しています。半導体、コンピュータ、通信技術の進歩により、世界中どこにいても瞬時に情報が入手でき、国境を越えたビジネスの展開やEC(電子商取引)などが現実のものになろうとしています。一方、地球温暖化、環境汚染、食糧問題、人口問題、地域紛争など、世界には解決を要する問題が山積しています。現代文明を支えるエネルギーそのものにしても、化石燃料の将来はそう長いものではありません。21世紀を目前にして、世界は大きな転換期を迎えていると言えます。技術に課せられた期待や課題はまことに重く大きく、創造的な研究開発によるブレークスルーが求められています。

当社は、情報システム、通信システム、マルチメディア関連機器、電子デバイス、電力・エネルギーシステム、環境・公共システム、産業用機器・システムなどの幅広い製品を製造し、お客様のニーズにおこたえするとともに、将来製品に必要となる技術の研究開発を進めております。こうした事業を通じ、21世紀の人類の課題の解決に、積極的に役立っていきたいと考えております。

1910年の創業以来、当社は、「技術を通じて社会に貢献する」ことを本来の使命としてまいりました。その伝統は、今も変わることなく、脈々として受け継がれています。

技術の先見性を発揮して世界の人々から信頼され、人類の未来を託すに値する企業を目指して、最近、当社は“Here, The Future(日立を見れば未来がわかる)”というスローガンを掲げております。これからもたゆまざるチャレンジにより、人類の望ましい未来を創造していく考えです。

皆様のご指導、ごべんたつを賜りますようお願い申し上げます。